

足尾銅山を世界遺産へ

— 今後の具体的な取り組み —



明治期からの文書が保存されている掛水赤煉瓦書庫



12月号では、足尾銅山の世界遺産暫定一覧表追加記載提案に係る調査・審議結果とこれまでの取り組みをお知らせしました。
今回は、調査・審議結果についての文化庁からの通知内容の詳細と、今後の具体的な取り組みをお知らせします。

調査・審議結果についての文化庁からの通知内容

総合的評価

水力発電により探鉱から製錬の各工程を電化することにより、電気精銅までの一貫した銅生産機構を確立し、東洋一の生産量を誇った鉱山であるとともに、田中正造の追求により広く知られた鉱害、及び公害が大きな社会問題となる中でその鉱害防除技術として、「自溶製錬法」、「電気集塵法」、「接触脱硫法」を応用した脱硫技術の実用化や水質保全対策を進めたことにより知られる鉱山である。

日本を世界有数の産銅国へと発展させた銅鉱山の遺跡で、一連の諸要素が谷地形にまとまって遺存し、鉱害防除技術の歴史を示す資産として、価値は高い。

課題等

❖ 顕著な普遍的価値

○ 世界的・国際的な観点から、鉱害防除関連資産が顕著な普遍的価値を持ち得ることの証明が不十分である。さらに、鉱害防除の過程を示す資産の代表例・典型例として本資産が顕著な普遍的価値を持つことへの証明が不十分である。

❖ 今後の課題など

○ 世界的・国際的な視点に立ち、鉱害の負の側面に対する配慮及び研究をさらに十分に行うとともに、我が国における銅鉱山遺跡とその関連技術及び鉱害防除技術の全体像を明らかにする観点から、国内外の同種資産との比較研究を進めることが重要である。

○ 文化財としての保護が十分ではないものについては、指定・選定又は追加指定等を行うことが重要である。

ある。

通知内容の解説

「鉱害防除技術」に関連する資産については、技術史的な観点からは一定の評価が得られているものの、世界的・国際的観点から見た場合、歴史的・文化的な資産としての評価は、いまだ十分には定まっていけないものと考えられます。

そのため、関連資産の価値に関する国際的な評価の方向性を十分に見極めつつ、今後は、適切な主題設定について検討していくことが必要であると考えられます。

今後の具体的な取り組み

前段で説明した、文化庁の調査・審議結果を受けて、市では足尾銅山の世界遺産登録推進検討委員会を開き、文化庁から示された課題の整理と今後の取り組み方を協議しました。その結果は、次のとおりです。

課題の整理(具体的な課題)

- ① 鉱害防除技術について、技術史的には高い評価を受けたが、世界史的・国際的観点からの検証が不十分とされた点
- ② 足尾銅山が、日本を代表する銅山であることの証明が求められた点
- ③ 構成資産の法的な保護が必須である

ることから、関係資産の文化財指定が求められた点

課題解決に向けての具体的な取り組み

①の課題に対する取り組み

○ 世界的・国際的な観点から足尾銅山の世界遺産としての価値を証明するため、市の検討委員会の中に、大学教授など研究者による歴史学の専門調査委員会を設置します。

○ 足尾銅山における鉱害防除技術を検証するため、古河機械金属株式会社などが所蔵する明治期からの資料・文献調査を進め、資料集の編集・発行を行います。また、シンポジウムなどを開催し、情報を発信していきます。

②の課題に対する取り組み

○ 市の検討委員会の指導、助言を得ながら、国内外における類似鉱山との比較研究を進めます。

③の課題に対する取り組み

○ 足尾銅山跡としての文化財指定を進めるに当たり、市の検討委員会の中に、大学教授など研究者による保存・活用を考えた整備・活用の専門調査委員会を設置します。

今回は、シンポジウムの開催内容などについてお知らせします。

くわしくは

生涯学習課 世界遺産登録推進室

☎(21)5182

文章中の用語の解説

※1 自溶製錬法

自溶炉で鉱石を溶かす際に、鉱石自体の酸化熱を活用するため、溶鉱炉や反射炉などに比べて燃料の消費量が非常に少なくすむ製錬法。発生するすすなどが減り、鉱害の防除につながります。

なお、この自溶製錬法を日本で最初に取り入れ、その基礎を確立したのが足尾製錬所です。現在では日本の銅の約7割が自溶製錬法で生産されています。

※2 電気集塵法

静電気の力を使って塵(すすなど)を集める方法。

2つの電極の間を通すことにより、電気を帯びた塵が一方の電極に付くことで塵を取り除きます。

※3 接触脱硫法

自溶炉からの排ガス中の硫黄分を水素と反応させ、硫化水素として除去する方法。

※4 遺存

当時の状態で残っていること。